



北陸管内の経済情報

(全国財務局長会議資料)

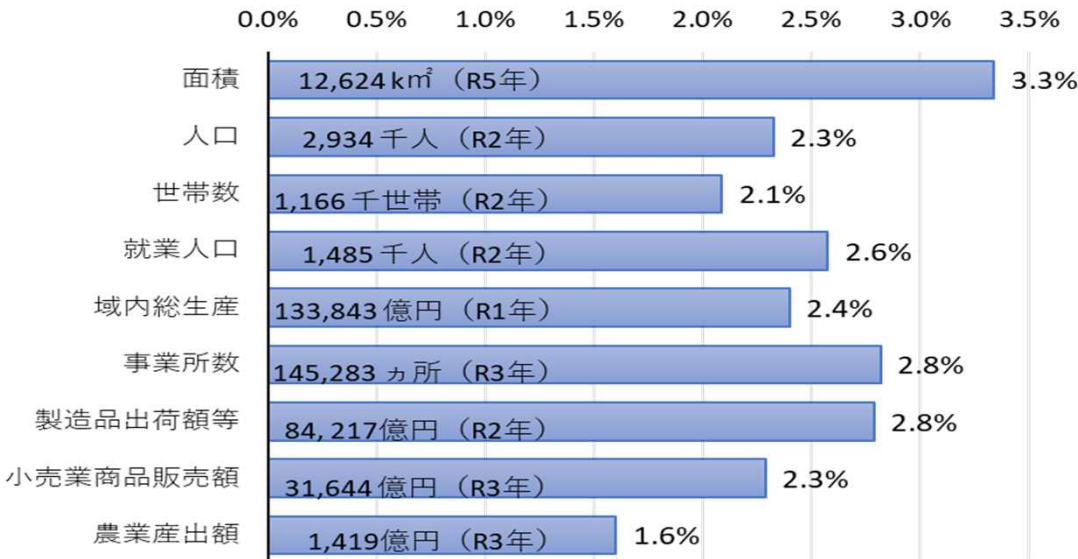
- I. 北陸財務局管内の経済構造等
- II. 最近の北陸財務局管内の経済情勢

令和5年7月26日
北陸財務局

【お問合せ先】
財務省 北陸財務局 経済調査課
TEL (076) 292-7858

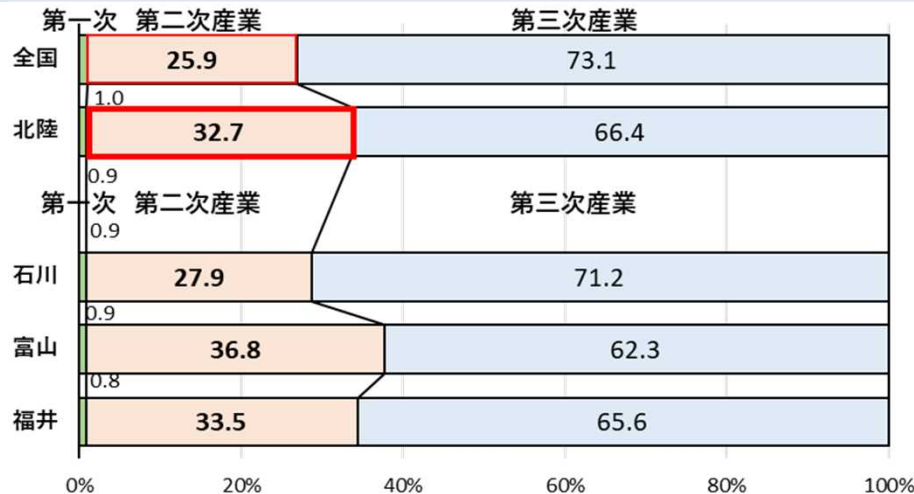
I. 北陸財務局管内の経済構造等 ～ものづくりの盛んな地域～

(1) 経済規模 … 全国比で3%程度



【出所】 国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「国勢調査」、「経済センサス」内閣府「国民経済計算」、各県「県民経済計算」、農林水産省「農業産出額」より当局作成

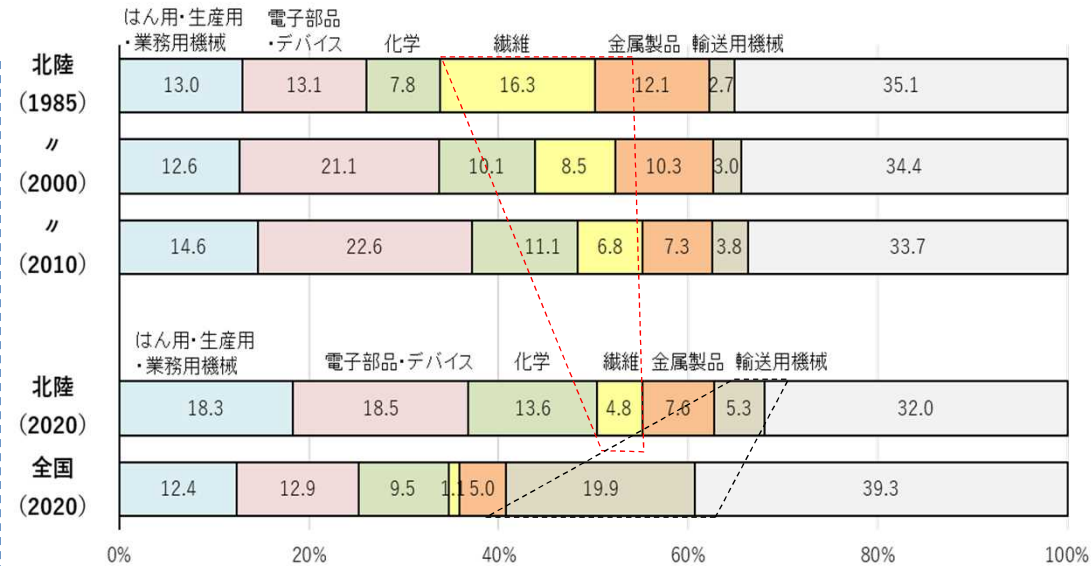
(2) 産業構造 … 第二次産業の割合が高い



【出所】 内閣府「国民経済計算(令和元年)」、「県民経済計算(令和元年度)」より当局作成
【備考】 国内、県内総生産額(名目)

(3) 製造品出荷額等

… 基幹産業は、機械、電子部品・デバイス、化学

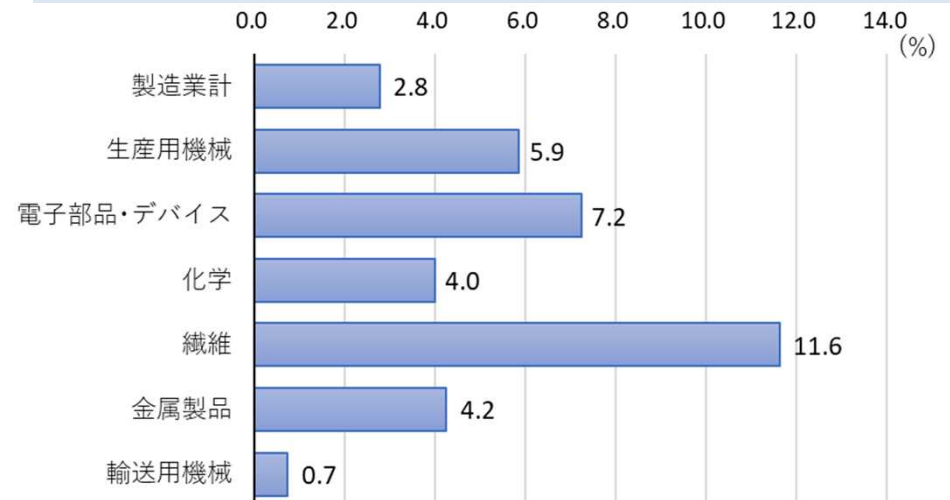


【出所】 総務省「経済センサス」より当局作成

【備考】 電子部品・デバイスは、1985年及び2000年は電気機械、2010年及び20年は、電子部品・デバイス、電気機械、情報通信機械を合算

(4) 業種別の全国シェア(製造品出荷額等、2020年)

… 繊維に存在感あり



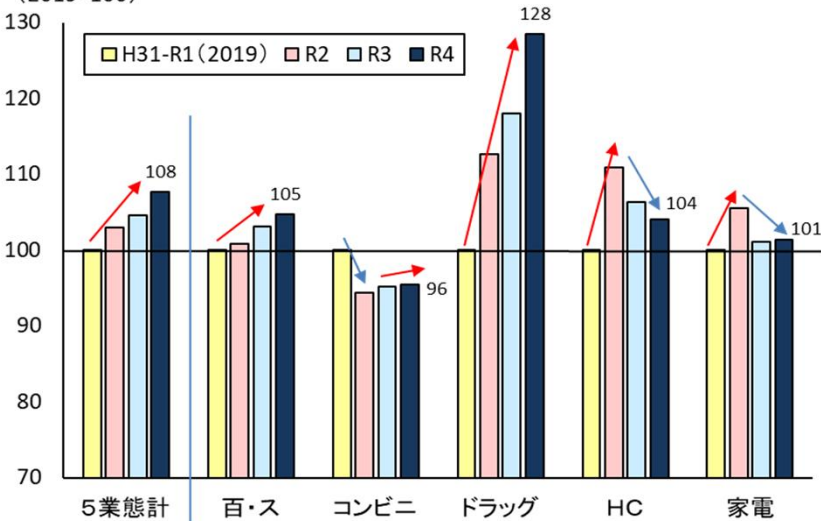
【出所】 総務省「経済センサス」より当局作成

1. 北陸財務局管内の経済構造等 ～ 個人消費 ～

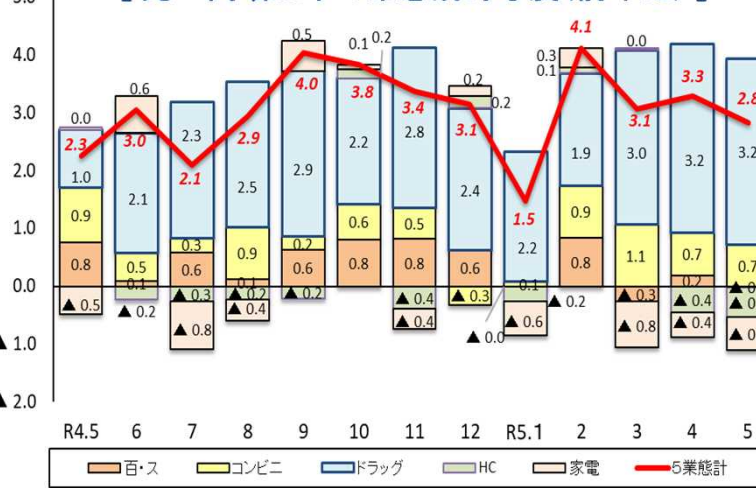
(1) 売上高の推移 (■左グラフ:各年・業態別、H31・R1年～R4 / ■右グラフ:足下1年間、R4.5～R5.5)

…コロナ禍とその後も、百貨店・スーパーは堅調、ドラッグストアは拡大

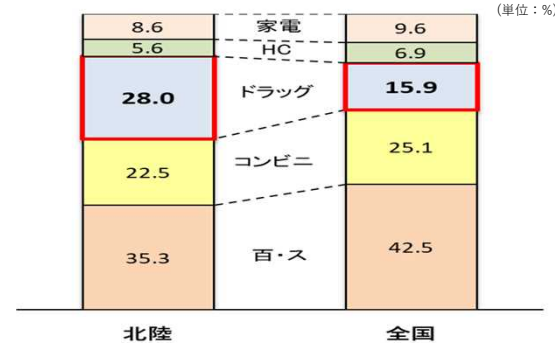
(2019=100)



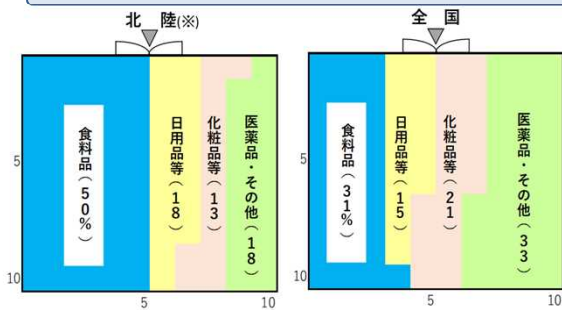
【売上高増加率の業態別寄与度(前年比)】



主要5業態・売上高構成比 (R4)



ドラッグストア・売上高構成比(※)

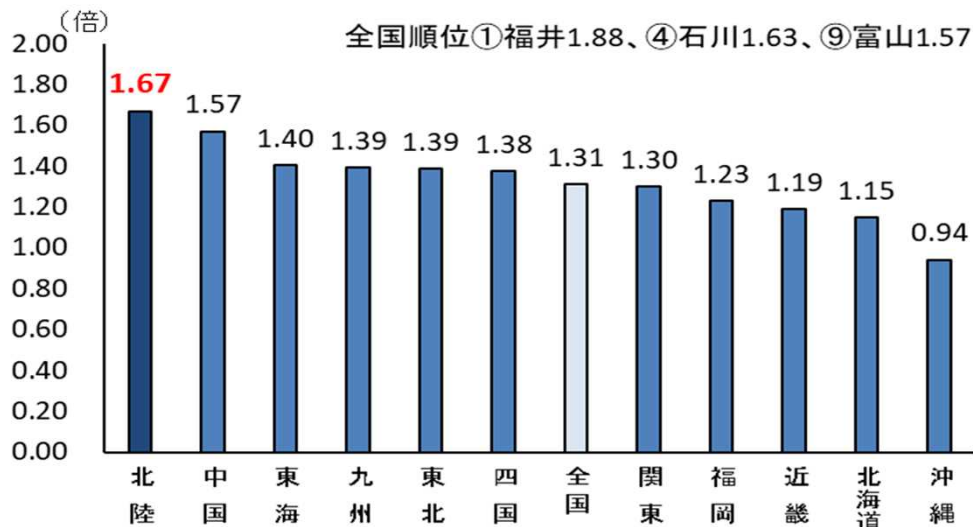


【備考】北陸(※)は地元上場企業2社の公表資料(全国ベース)を基に当局で合算等したものであり、北陸管内の構成比を示すものではない。全国は「商業動態統計(R4)」からビューティーケア、トイレタリーを「化粧品等」として、当局で試算したもの。

1. 北陸財務局管内の経済構造等 ～ 雇用情勢 ～

(1) 有効求人倍率 (R4年度)

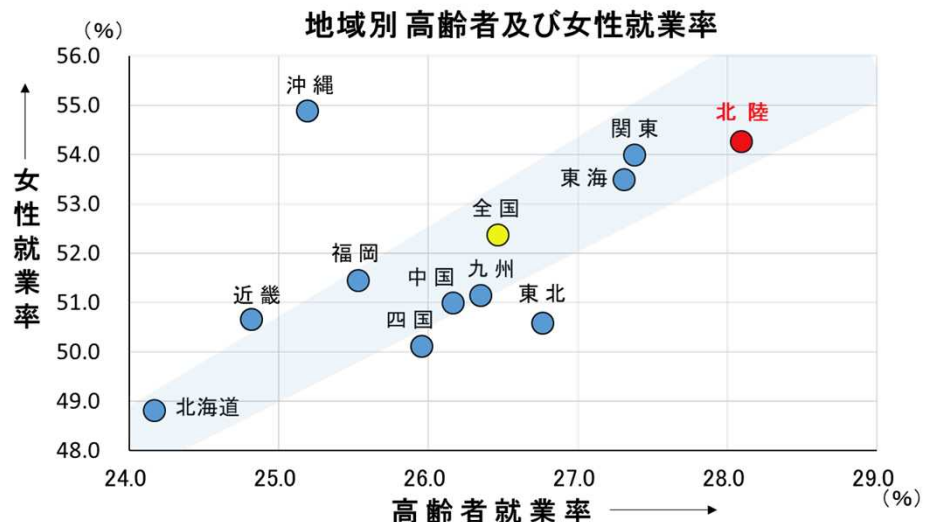
…全国で最も高位にあり、人手不足感が強い



【出所】厚生労働省「一般職業紹介状況」より当局作成 【備考】地域は各財務局別で当局試算。

(2) 高齢者及び女性就業率(R2年)

…他地域と比べて高位(≒労働供給余力は低位)

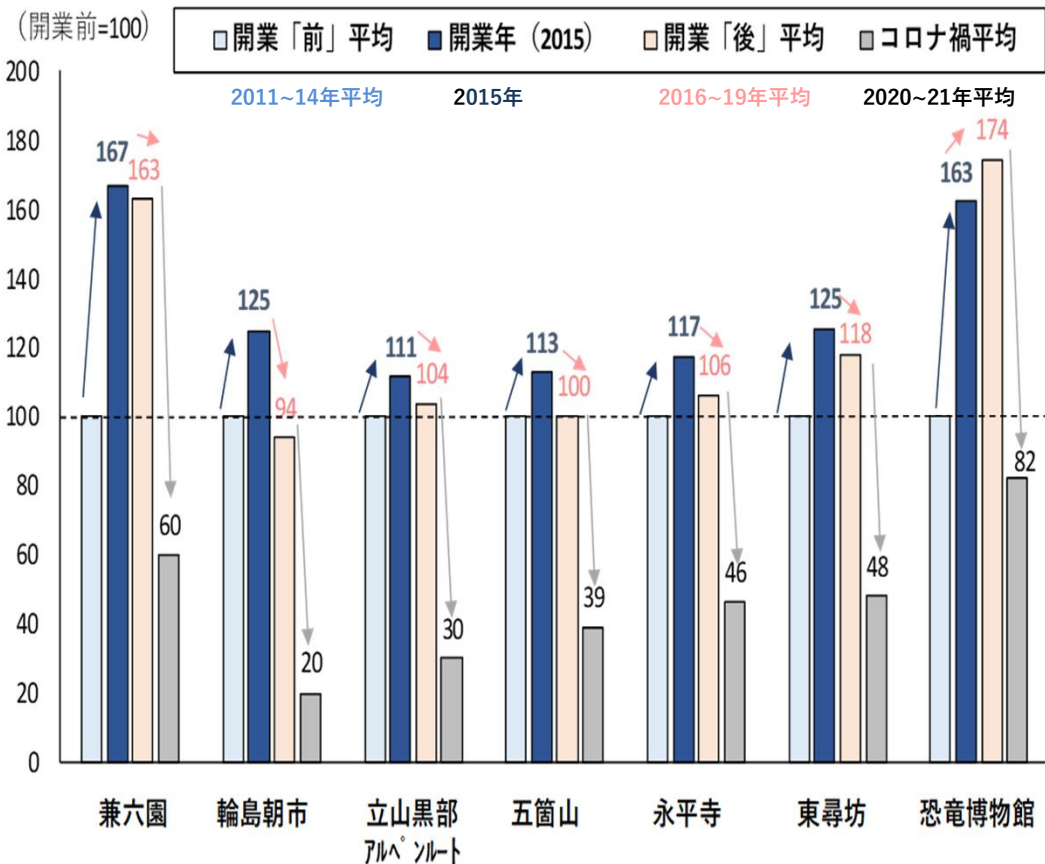


【出所】総務省「国勢調査(R2、不詳補完値)」より当局作成 【備考】地域は各財務局別で当局試算。

I. 北陸財務局管内の経済構造等 ～ 観光 ～

1. 北陸新幹線の金沢開業(2015/3)からコロナ禍まで(～2021)

- 観光地の入込客数の推移 (新幹線開業前、開業年、開業後、コロナ禍まで)
- … 新幹線開業効果は2年目以降も続いたが、コロナ禍で急減



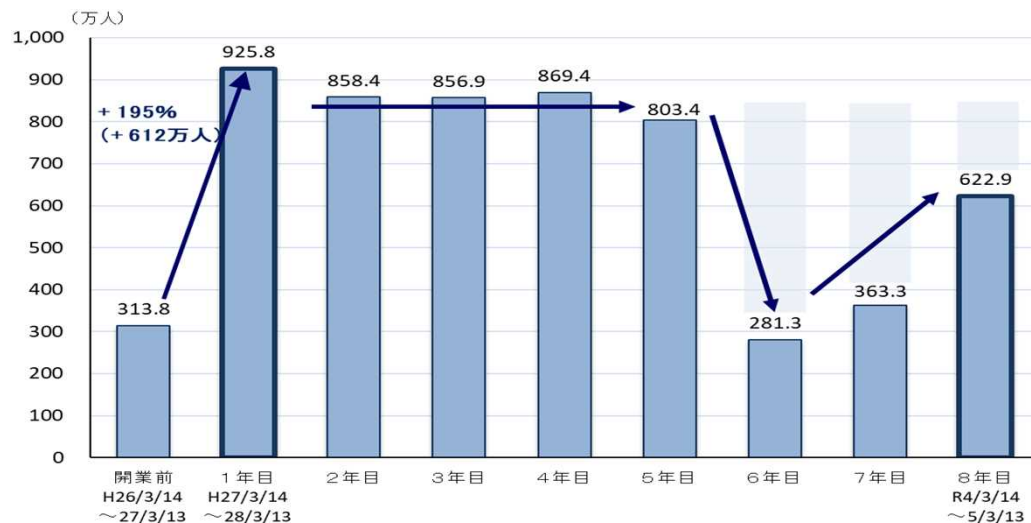
【出所】各県以下統計資料(各年)より当局作成
 石川県「統計からみた石川県の観光」
 富山県「富山県観光客入込客数等」
 福井県「福井県観光客入込数(推計)」

【備考】開業「前」平均=2011年~2014年(H23~H26)
 開業年 = 2015年(H27)
 開業「後」平均=2016年~2019年(H28~H31/R1)
 コロナ禍平均 = 2020年~2021年(R2~R3)

2. 足下の動き

(1) 北陸新幹線の利用状況

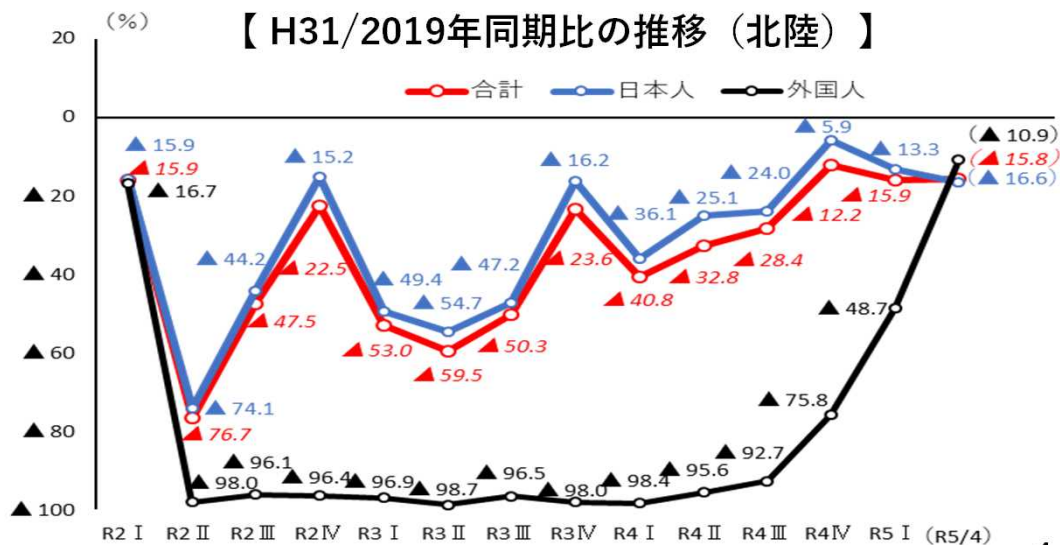
- … 社会経済活動の正常化とともに、持ち直しの動き



【出所】JR西日本公表資料により当局試算。なお、各年とも3/14~3/13ベース
 【備考】上越妙高~糸魚川間。なお、開業以前は在来線特急「はくたか・北越」(直江津~糸魚川間)

(2) 延べ宿泊者数の推移 (コロナ禍2020年~足下2023/4=R5/4)

- … 足下は、日本人、外国人とも、コロナ前に迫る

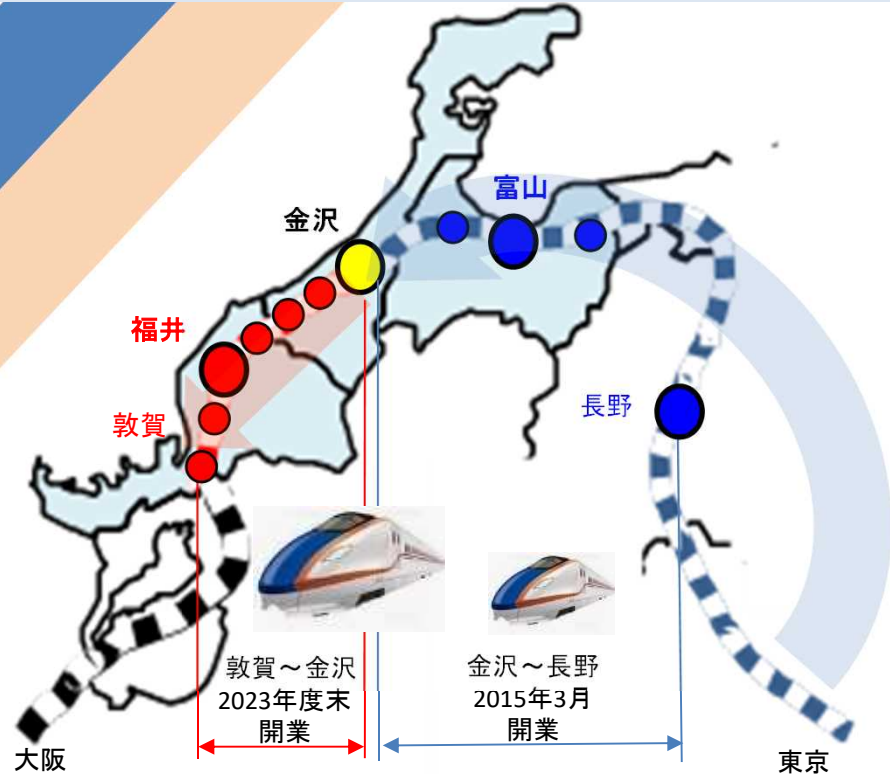


【出所】観光庁「宿泊旅行統計調査」より、当局作成

1. 北陸財務局管内の経済構造等 ～ 北陸新幹線の敦賀延伸 ～

(3) 北陸新幹線の敦賀延伸

・・・ 2023年度末の敦賀延伸に向けて、期待膨らみ動き加速



■各駅への所要時間（敦賀延伸時）

	新大阪	敦賀	福井	金沢	富山	東京		
現行		特急		北陸新幹線(H25・金沢開業)			現行	
	0:00	→	1:43	→	約2:30	→	約3:00	
敦賀延伸後 (R5年度末)		特急	北陸新幹線(R5年度末・敦賀延伸)		北陸新幹線(H25・金沢開業)		敦賀延伸後 (R5年度末)	
	0:00	→	2:53(▲31分)	←	2:25(±0)	←	2:05(±0)	←
		→	...	→	約2:00(約▲30分)	→	約2:30(約▲30分)	

【出所】石川県HP（北陸新幹線の概要）、富山県「とやま新幹線延伸戦略（R2.3）」、福井県HP（北陸新幹線 整備効果）、鉄道建設・運輸施設整備支援機構「北陸新幹線（金沢・敦賀間）事業に関する事業評価（R3.3）」、時刻表より当局作成

期待の声

【石川県は地域表示(金沢、加賀、能登)】

- レストラン、外壁及び一部フロアの客室全面改装など、延伸にあわせて、例年に無い規模の設備投資を実施【福井/温泉旅館】
- 関東からのアクセスが改善され、関東客の増加を期待【加賀/温泉地】
- 北陸が注目されるチャンスであり、地域と連携して誘客したい【富山/観光地】
- ホテルなど観光関連業からの派遣需要の増加に期待【金沢/人材派遣】
- 新駅の周辺店舗で、観光客による飲料や地元グルメの売上増を期待【加賀/小売】
- 小松駅、加賀温泉駅付近の店舗を改装する予定【金沢/小売】
- 敦賀駅周辺では、ホテルや飲食店が進出し、業務用設備に動き【金沢/卸売】
- 販売イベントで手応えのあった長野・軽井沢と沿線上で繋がるため、福井に来て眼鏡を購入する者が増えることを期待【福井/製造】
- 福井が注目され移住者が増加し、就職希望者も増えることを期待【福井/製造】
- 関西の学生にとっては、物理的にも心理的にも距離感が縮まるため、人材確保にはメリット【富山/製造】
- 関西への出張では多少時間短縮となる【富山/製造】

期待の一方で、課題・懸念も

- 関東客の増加に期待も、主力の関西客の減少を懸念。関西客が「乗り継ぎが手間」とされ敬遠する恐れや、初日は富山・長野まで足を延ばし、2日目は金沢に立ち寄り帰る、といった旅行スタイルに変化することも懸念【加賀/温泉地】
- 関西・中京客には、敦賀での乗り継ぎによる利便性の低下を懸念【福井/温泉旅館】
- 関東からの観光客は、能登よりも加賀に流れる可能性がある【能登/観光地】
- 関東客の増加を見込むも、首都圏での知名度アップが急務【加賀/温泉地】
- 関東から福井方面に向かう旅行者を取込むため、福井1泊+富山で1泊、という2泊3日の旅行商品を企画することが必要【富山/温泉地】
- 3県内の温泉地や観光地間で連携し、エリアで誘客しながら、周遊性を高めることが必要【福井/飲食】
- 体験型コンテンツを増やし、観光客を受け入れる体制整備が課題【富山/旅行】
- 着地後の駅と温泉地、観光地と観光地等を結ぶ2次交通が課題【複数】
- 交流人口の増加を期待も、スタッフを十分に確保できるか不安【福井/飲食】
- 延伸に伴う地区再開発に期待するが、ハイブランドを求める地元客が、東京に流れることを懸念【福井/小売】


北陸新幹線の開業効果は、コロナ禍で落ち込んだものの、社会経済活動の正常化に伴い回復に向かっている。

こうしたなか、2023年度末の敦賀延伸は、「第二の開業」であり「100年に一度の好機」。




このチャンスを最大限に活かすため、広域連携によって、北陸への誘客促進のほか、周遊・滞在時間の増加に向けた取組みの進展に期待。

また、足下では、人手不足のため、例えば温泉旅館ではやむを得ず予約を断るケースも散見されるが、業種を問わず商機を逃さぬよう、人手の確保とともに、生産性の向上に向けた取組みにも期待。

II. 最近の北陸財務局管内の経済情勢

	前回(5年4月判断)	今回(5年7月判断)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	緩やかに持ち直している	持ち直している		個人消費は、ドラッグストア販売が好調となっており、百貨店・スーパー販売が緩やかに持ち直していることなどから、全体では持ち直している。生産活動は、電子部品・デバイスが下げ止まっているほか、化学が持ち直しているものの、生産用機械が拡大の動きに一服感がみられることなどから、全体では足踏みの状況にある。雇用情勢は、緩やかに持ち直している。

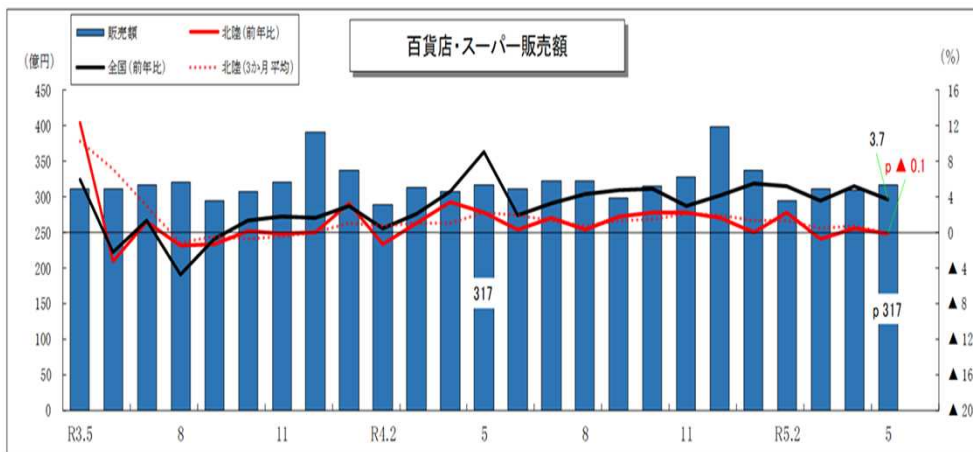
〔先行き〕雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

	前回(5年4月判断)	今回(5年7月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直している	
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	
雇用情勢	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	

※1. 5年7月判断は、前回4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

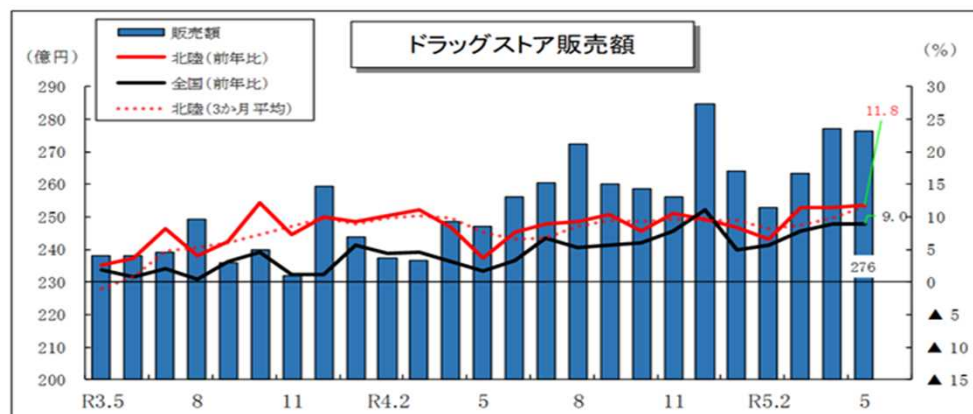
※2. 各項目の詳細については、「全国財務局管内経済情勢報告概要」を参照。

1. 個人消費 ～持ち直している～

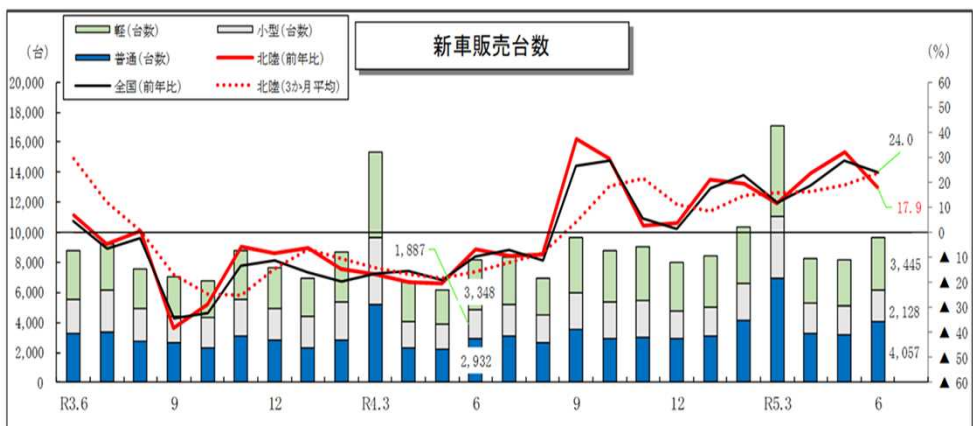


(注) 3か月平均は当局試算。

【出所】経済産業省、中部経済産業局



【出所】経済産業省、北陸財務局



【出所】日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会、北陸財務局

○ 百貨店・スーパー販売は、百貨店では高額品の動きがやや落ち着いていることから、前年を下回っているものの、スーパーでは飲食料品に動きがみられることから、前年を上回っており、全体では緩やかに持ち直している。

○ コンビニエンスストア販売は、米飯類等に動きがみられることから、堅調となっている。

○ ドラッグストア販売は、飲食料品等に動きがみられるほか、新規出店効果もあり、好調となっている。

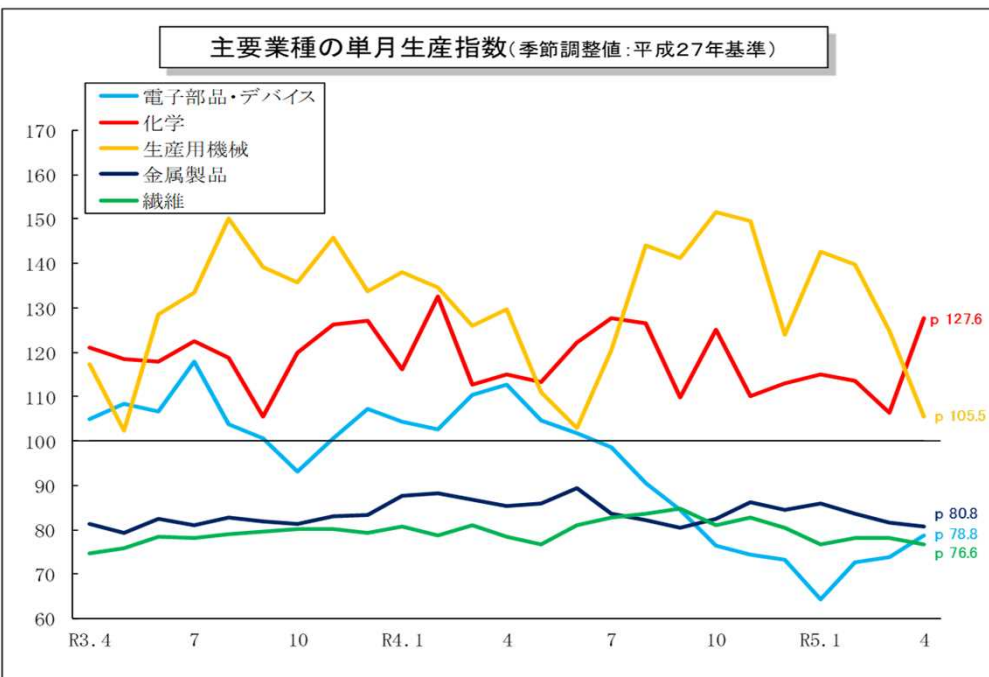
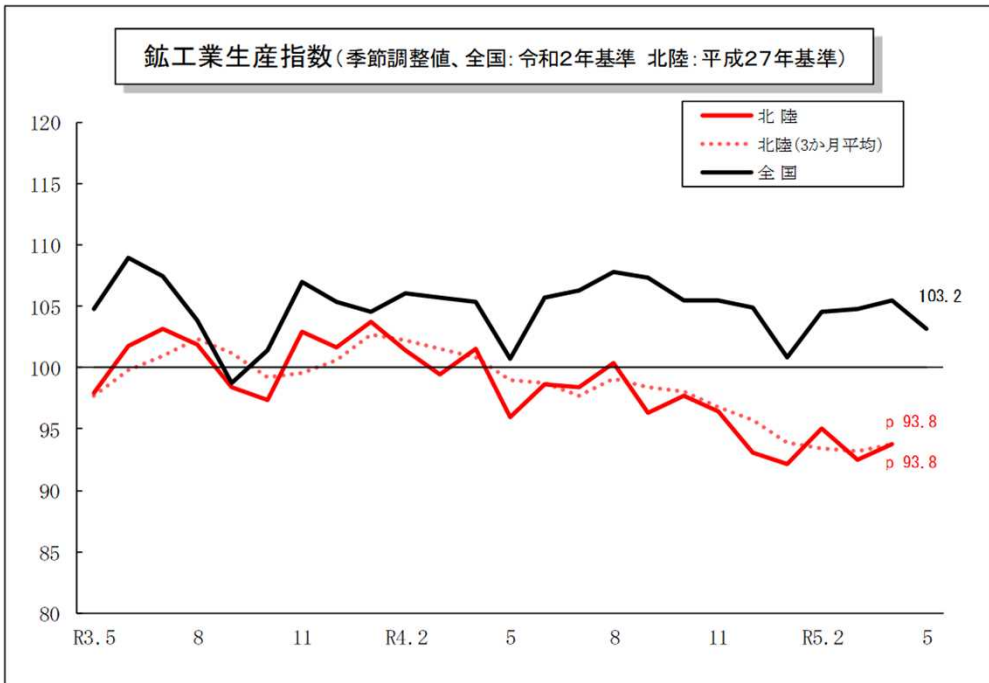
○ 新車販売台数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに前年を上回っており、緩やかに持ち直している。

○ 旅行取扱実績は、海外旅行は厳しい状況にあるものの、国内旅行は持ち直している。

(主なヒアリング結果)

- 消費者の支出が旅行や外食に向いており、高額品の動きがやや落ち着いているものの、依然としてコロナ前は上回っている。【百貨店】
- 販売価格上昇の影響もあり、飲食料品の売上は前年を上回っているが、節約意識の影響で、ポイントが多く付く日にまとめ買いをする動きが顕著になっており、それ以外の日は客数や買上点数が減少している。【スーパー】
- 観光地周辺の店舗を中心に客数が増加しており、おにぎりなど米飯類の売れ行きが良い。【コンビニエンスストア】
- 飲食料品を中心に、他業態よりも価格を抑えて販売しており、消費者が流れてきている。【ドラッグストア】
- 納車までの期間は徐々に短くなってきている。また、人気車種を中心に受注は順調に推移している。【自動車販売店】
- 国内旅行は、北海道や沖縄など遠方のリゾート地が人気で、宿泊日数も長期化している。【旅行代理店】

2. 生産活動 ～足踏みの状況にある～

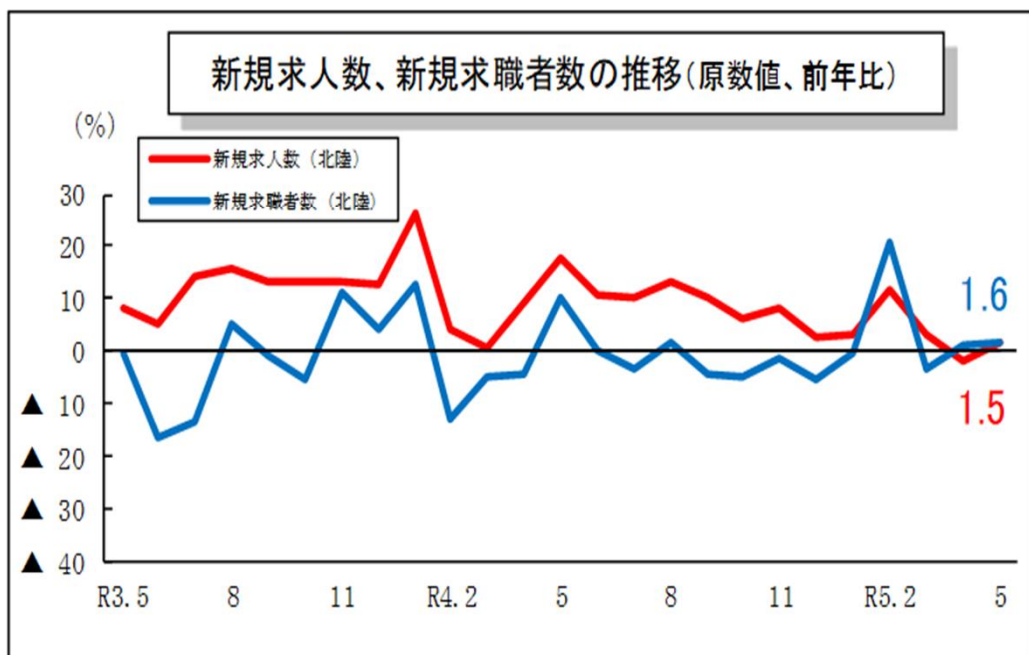
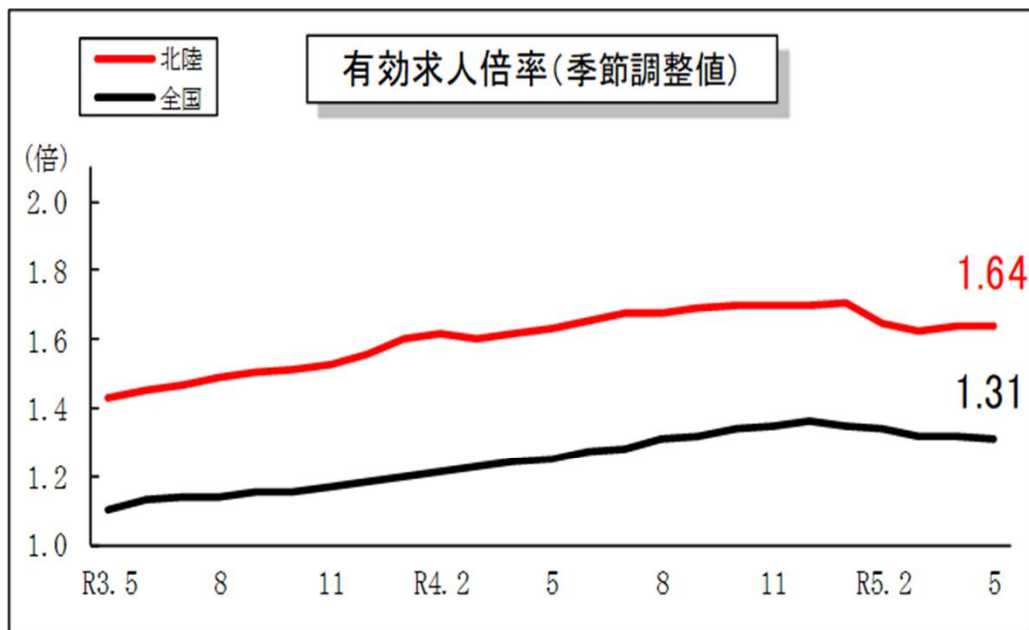


- 電子部品・デバイスは、スマートフォン向けが下げ止まりつつあるほか、自動車向けが緩やかに持ち直しつつあることから、全体では下げ止まっている。
- 化学は、大宗を占める医薬品で、持ち直している。
- 生産用機械は、繊維機械が拡大しているほか、金属加工機械が増加しているものの、半導体製造装置が弱い動きとなっていることなどから、全体では拡大の動きに一服感がみられる。
- 金属製品は、大宗を占めるアルミ建材で、住宅用が弱含んでいるほか、ビル用が持ち直しに向けた動きに一服感がみられることから、足踏みの状況にある。
- 繊維は、衣料向け、非衣料向けともに緩やかに持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- スマートフォン向けについては、中国メーカーの在庫調整も進んできたようで徐々に受注が戻ってきている。【電子部品・デバイス】
- ジェネリック医薬品の需要が引き続き増加しており、生産が追い付いていない。【化学】
- 半導体製造装置については、世界的なメモリ需要の低迷を受けて海外の取引先が投資を控えているため、当社の生産台数が減少している。
【生産用機械】
- 持家の着工戸数が減少していることから、引き続き住宅用建材やエクステリアが弱含んでいるほか、ビル用建材についても動きが鈍くなっている。
【金属製品】
- 車両資材(カーシート)については、自動車減産の影響が解消に向かっており、回復してきている。【繊維】

3. 雇用情勢 ～緩やかに持ち直している～



○ 有効求人倍率は緩やかに低下しているものの、高水準で推移している。新規求人数は前年並みとなっており、新規求職者数は前年を上回っている。雇用保険受給者実人員は前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 即戦力を必要としている企業では、特に人員確保に苦労している。また、賃上げもできていないため、若者を募集しても応募がほとんどない。
【繊維(業界団体)】
- 依然として人材の取り合いになっており、特に食品売場が足りていないため、今後の懸念材料となっている。【小売】
- 温泉旅館では、休日で宿泊客からのニーズが高くて、人手が足りず予約を断ったり、休館にせざるを得なかったりすることもある。【観光協会】
- 物価高などを背景として、収入増を目的にパートから正社員への転換やダブルワークを求める動きがみられ、求職者は増加している。賃上げの流れもあり、より良い条件の職場に転職したいというニーズがある。

【労働局】



(注1) 従業員数判断BSI = 「不足気味」回答社数構成比 - 「過剰気味」回答社数構成比。
(注2) 最新の現状判断は、令和5年6月末時点。